

第4回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアアップパスセミナー報告書

2021年10月26日

報告者：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター
がんプロプログラムコーディネーター 講師 中村暢彦

日時：2021年10月16日（土）14:00～16:00

開催形式：オンライン開催（Teams を利用した Web セミナー）

主催：多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）～高度がん医療を先導するがん医療人養成～

参加者数：121名

本学：78名（学部生52名、大学院生11名、教職員15名）

本学以外：43名（病院11名、薬局20名、その他一般11名、他大学1名）

概略：

本在宅医療推進がん専門薬剤師を目指すためのキャリアアップパスセミナーは「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）の主催で、がん専門薬剤師を目指す大学院生および学部生等向けに、がん医療のチームの一員として『現場で科学する』薬剤師の養成を目指す一環として実施された。

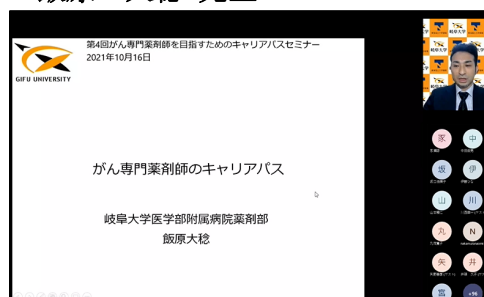
内容：

講演1では、岐阜大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長の飯原 大稔先生から「がん専門薬剤師のキャリアパス」と題した講演が行われた。キャリアは生涯の目標に向かって進めることであり、世の利益になる理想的な将来像は何かである「Vision」と、誰のために何をどのように実施するかの「Mission」が大切であることを強調された。飯原先生は、がん患者に対し抗がん剤の副作用を回避・軽減し、抗がん剤治療の治療効果の向上に貢献することを理念とされている。外来において薬剤師が常駐し、薬剤師は患者が医師との診察前がん薬物療法に副作用をモニタリングする体制を構築された。また、抗がん剤の副作用である悪心・嘔吐に対して研究課題として取り組まれ、抗がん剤投与時の制吐剤の有効性と安全性に関するエビデンスを公表されている。エビデンスは世界的な悪心・嘔吐のガイドラインに貢献されている。がん治療に携わる薬剤師としてご自身のキャリアの経緯と経験を丁寧にご講演いただいた。

講演2では、がんプロ修了生によるパネルディスカッションが行われた。登壇頂いたパネリスト5名の先生方のキャリアは病院薬剤師、大学教員、企業と多岐に亘っていた。自己紹介の後に事前に頂いた質問を元に進められた。質問内容として「現在の仕事を選んだ理由、がんプロでも学びがどのように役立っているのか」「学位取得後のキャリア変化や職務内容の変化について」「今後の展望」であった。また、座長から「学部生や大学院へに期待すること、在学中に学んで欲しいこと」が質問された。パネリストからはがんプロ修了生として、またご自身の経験から具体的に質問に答えて頂いた。

今回、コロナ禍の影響で対面では無くオンライン形式の実施となった。対面で行った2019年度の参加者は79名から121名の大幅な増加となった。また、参加者は学部生が中心であり京都を中心に東京などの遠方からも参加があった。本セミナーは盛会裏に終了した。

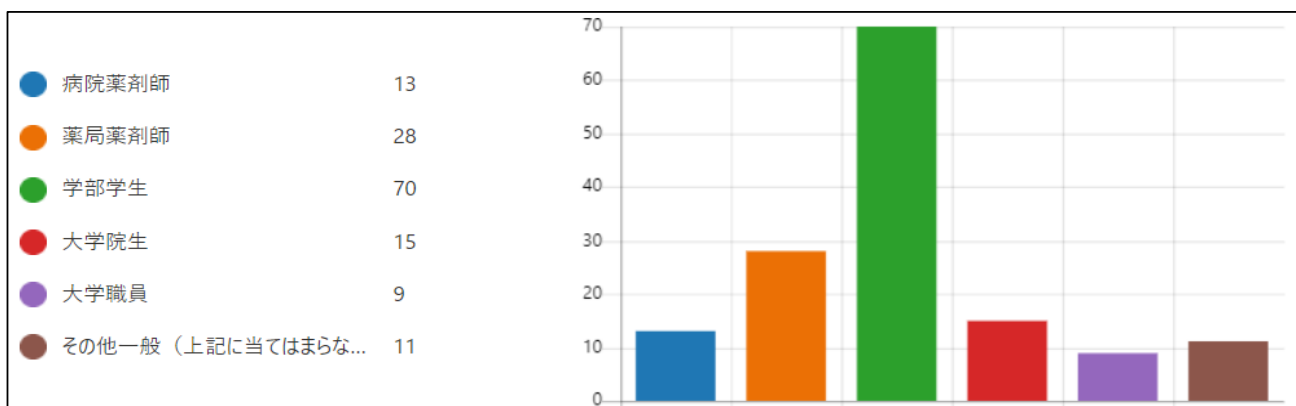
<飯原 大稔 先生>



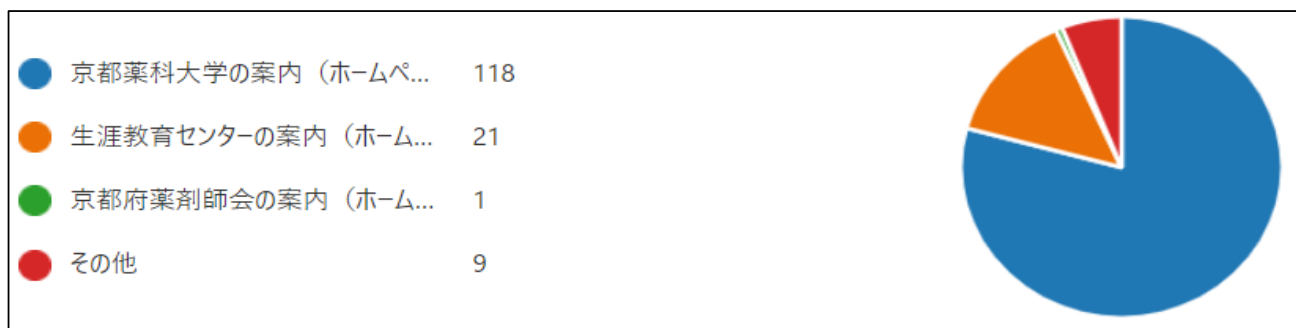
「第4回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー」 申込集計

日 時: 2021年10月16日(土) 14:00~16:00
 開催形式: オンライン開催(Teamsを利用したWebセミナー)
 申込人数: 146名

5. 職業



6. セミナーの開催はどこでお知りになりましたか。



その他内訳	人数
研究室からの連絡	3
院内の案内	2
先生からの紹介	1
上司の紹介	1
エレベーター前のポスター	1
manaba	1
計	9

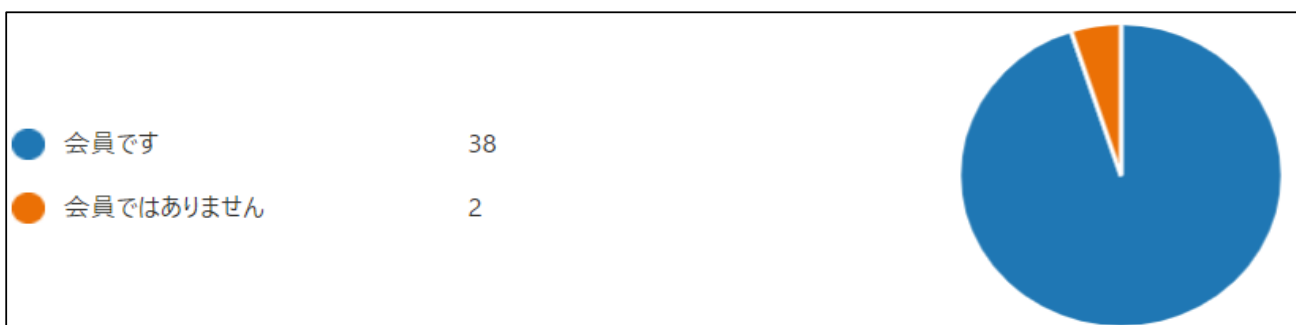
8. 薬剤師免許をお持ちですか。



9. 京都薬科大学認定単位G24について



10. 京都薬科大学 生涯教育センターの会員登録について



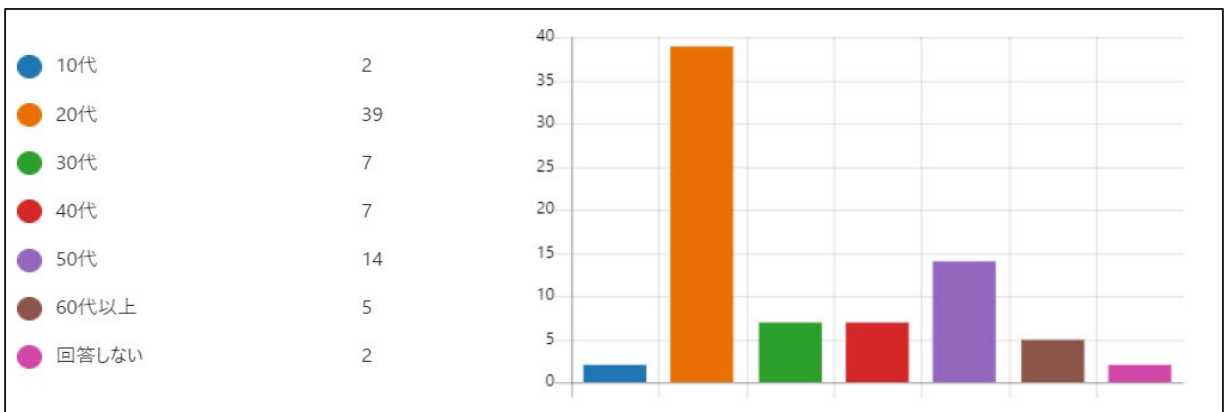
「第4回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー」 アンケート集計結果

開催名: 第4回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー
 開催日: 2021年10月16日(土) 14:00~16:00
 開催形式: オンライン開催 (Teamsを利用したWebセミナー)
 参加者数: 121名 (登録者数: 146名)
 本学: 78名 (学部生52名、大学院生11名、教職員15名)
 本学以外: 43名 (病院11名、薬局20名、その他一般11名、他大学1名)
 アンケート回答: 76名 (回答率62.8%)

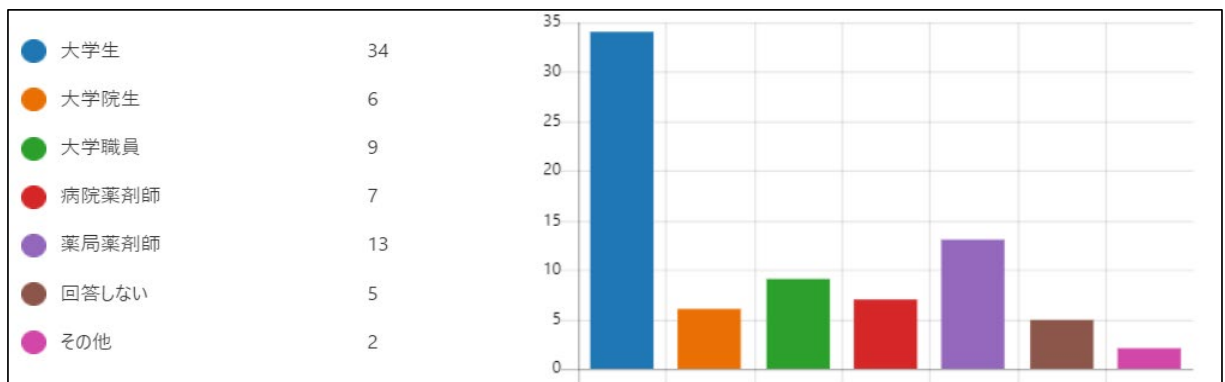
1. 聴講された方の性別は？



2. ご年代は？



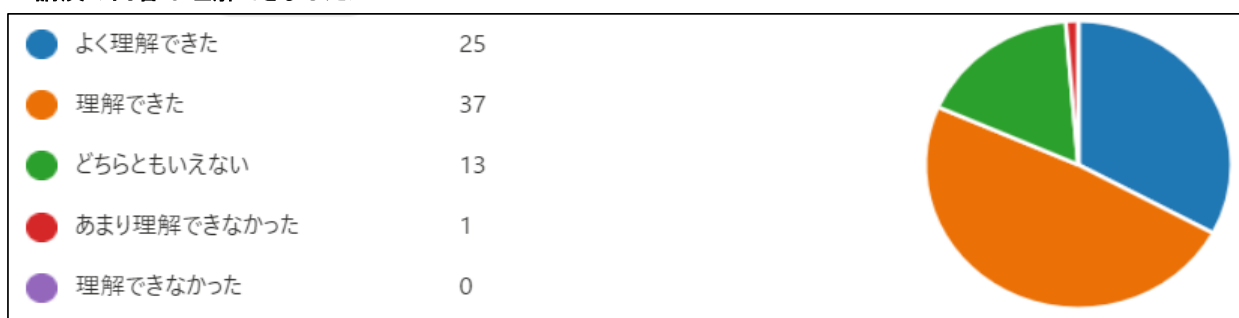
3. ご職業は？



4. お住いの都道府県は？

順位	都道府県	人数	%
1	京都府	33	43%
2	大阪府	15	20%
3	滋賀県	10	13%
4	兵庫県	5	7%
5	東京都	2	3%
5	神奈川県	2	3%
5	奈良県	2	3%
8	北海道	1	1%
8	福島県	1	1%
8	千葉県	1	1%
8	愛知県	1	1%
8	和歌山県	1	1%
8	鳥取県	1	1%
8	回答しない	1	1%
	計	76	100%

5. 講演の内容は理解できましたか？



6. 上記の理由をお聞かせください。

皆さんのお話が分かりやすく端的で良かった。
内容が難しかった
2部はともかく、1部が難しくて理解はできなかった
予備知識なく、セミナーに参加させて貰いましたが、様々な方のキャリアとかにがん治療に関する話を聞いて今後の進路を考える参考になりました。
初めて知ることがばかりで勉強になったため。
学校の授業とは違い実際の現場の話聞いて大変興味深かったから。
いかにしてものごとを考えながら過ごすかの重要性を感じました。
わかりやすく講義していただき、理解しやすかった。パネルディスカッションの内容もわかりやすかった。
漠然とした内容でしか理解できず、細かい用語ひとつひとつの理解が事前知識や未履修であるものもあったため。学生への導き方を示唆していただけた。
実際にどのような取り組みが行われているかが理解できたから。
以前病院薬剤師業務に従事しており講義内容についてどのようなこととお話されているのかわかり、理解が深まりました。
病院薬剤師の可能性が十分理解できました。
専門薬剤師という単語だけを知っている状態で、何をしておられるのかということをはぼわからない状態で講演を聴かせて頂いたので、1部の内容は、未知の内容が盛り沢山で、理解するのが難しく感じました。
理念的なことよりも実臨床の講義や副作用のグレードや対処に対する方法ほ話が聞きたかった
日常の煩雑な高度な業務に加え数々の論文作成までご同業の皆様の高い志と粉骨砕身の活躍に敬意を表します。末端の薬剤師として奮起する一日となりました。
講演前はがん専門薬剤師という方がおられるということだけ知っている状態でした。そのため、今回の講演を通して、がん専門薬剤師とは何か、何を目指しているのか、そしてがんプロコースを通して何が得られたのかを詳しく知ることができてとても良い経験になりました。
薬剤師になった後のキャリアや、専門性の活かし方等について学ぶことが出来ました。
これから社会でどのように活躍していくことができるのかを現実味をもって聞くことができたから。
がん専門薬剤師の基本的なことから、丁寧に説明をしてくださったから。
用事があってすべてきけなかったため、web開催のおかげでそういった参加もできて良かったです。
飯原先生のご説明が大変分かりやすく、研究の必要性や論文に対する大切さを学びました。
また、自分自身が病院実習(実務実習)時に学んだ内容とリンクさせて聴講できたことも大きく影響しました。
学部生なので細かいところまでは理解できなかったが、ビジョンを設定しミッションを遂行すること、論文として形に残すこと、疑問をそのままにせず解決するために行動すること、といったようなことは理解できたから。
学部生にもわかるような言葉で話して下さっていたため。
臨床に役立つ研究で大変理解できた。
病院薬剤師が病院のチームワークのなかでどのように治療に関わっているのか、わかりやすく話していただけてよかったです。

がん専門薬剤師が具体的に日々どのような業務を行い、それがどのように医療現場で活かされているか等の話が聞けるとして申し込んだが、期待していた内容と全く違った。講師の詳細な経歴や、自己の手柄自慢のような話を聞いたところで、何もならない。全くの時間の無駄だった。

研究内容の紹介のところが少し難しく、よく理解できたとは言い難いが、その他の内容は理解できたように感じた。

話し方が丁寧でわかりやすかった。

講演内容が期待していたものと違った。

進路に迷う学部生に対して、先輩の卒業生が、どのようなプロセスで今日に至ったか、そのなかでがん専門薬剤師がどのような位置を占め、何を学んだのかを披露する場という印象で、ある程度の年代の薬剤師にとっては、そもそも本セミナーの目的から外れている印象だったため。

飯原先生がされてきたお仕事の説明がとても具体的で、そこに対して理論を当てはめつつお話を進めていただけのため。

わかりやすく拝聴できました。

大学3年生であり、内容を完全に理解できたとは言い難い。

講演が聞きやすかった。

内容がわかりやすかった

ご講演内容が分かりやすく薬剤師の業務内容も具体的にお話しされていて勉強になりました。

7. 今回の「第Ⅰ部 特別講演」はいかがでしたか



8. 今回の「第Ⅱ部 パネルディスカッション」はいかがでしたか



9 上記の理由をお聞かせください。

特別講演に関しては、病院薬剤師がここまでできるのかと感動した。

周りの人がこの職業に就きたいと決まっている人が多く、自分自身とても焦っていましたが、研究室の活動や実務実習を通して悩んで進路を決めていきたいと思いました。パネルディスカッションでは実際の卒業生の方の話を生で聞けて良かったです。

難しく内容は理解しきれないが面白いと思った

何がしたいのか分からず悩んでいて若干焦っていたが悩み抜いた先に答えがあるのだと分かった。また、自分を磨くために大学院に進む道も悪くないと感じたから。

それぞれの先生方が学び感じたことを聞く中で今後の自分の過ごし方に大変参考になるなと感じました。

知らなかった内容を知ることができ、知識が広がったから。

薬剤師として実際の働きやキャリアと仕事との考え方がひとつ深くなれたと感じたため。また、これから先の自分のやりたいことが少し見えてきたと感じられたため。

もう少し具体的な話も聞きたかったです。

先生方や先輩方がどのような信念でどのような選択をして今のお仕事をされているか知ることができて、将来の選択をする上で参考になったため。

がんプロや大学院で学ぶ魅力や、学んだことを現在どのように感じているかについて、さまざまな視点から意見が聞けたから。

がんプロコースでどのようなことを学べるのか、どのように役立てることができるのかがよくわかったためです。

私ももっと早くにこのような研修が行われていたらよかったのになあと感じました。

非常にわかりやすく、後輩の指導・育成・発展を願う先輩からのコメントに愛を感じました。

学部生の現段階で、何気なく将来は病院薬剤師一択と考えていたので、多くの経験をして視野を広げるという意味でも、がんプロを経験してみることに興味が湧きました。

学生さんが対象のたっただようです

現在の癌薬物療法に最前線にいる薬剤師の活躍振りを知れ自身の日常業務へ大いなる発憤材料となった。高度医療の中での益々の活躍を祈念しております。

がん専門薬剤師の方やがんプロコースを修了して現在働いている方々の、自身の経験を交えたお話が盛りだくさんで、得るものが多くありました。

将来は薬局薬剤師として勤務予定であるため、臨床現場での経験談は大変参考になりました。

大学院への進学は考えていませんでしたが、院生の方がどのようなことを考え、経験されてきたのかを大まかに知ることができるいい機会となりました。

博士課程はあくまで通過点であり、学部生および大学院生にもこれからの学びに大きく生かすことができたと感じたか

実際の現場における薬剤師の働きの変化や、がんプロのメリットを聞くことができたから。

質問に対して、皆さんの考えを聞けたから。

先生方のそれぞれ異なった価値観を知ることができ、参考になりました。

第Ⅰ部では、がん専門薬剤師というものが、医師・看護師などの医療従事者、患者との間でどのように考えて行動し、がん治療に貢献していくかを詳しく知ることができました。

第Ⅱ部では、がんプロを選択したことによる利点に加えて、学部生、大学院生の段階でどのような意識で勉強、研究に打ち込むかお聞きすることができて、進路の迷いが少し減ったように思いました。

卒業生のお話が聞けて参考になりました。

今回このセミナーに参加したのは、現時点で将来自分が何をしたいのか分からないので、このセミナーに参加することで1つ選択肢が増えるきっかけになればいいなということでした。第1部では、飯原先生のお話で、岐阜大学附属病院薬剤部での活動についてなんとなく知ることができたとし、第2部では、それぞれの先生が仕事を選んだ理由、学部生の今どのように過ごすべきかなど、知りたいと思っていたことを知れてよかった。

第1部では、がん治療に多く貢献してきた方のお話を聞くことが出来、とても貴重な体験だったと思います。特に、岐阜大学における薬剤師による診察前相談の取り組みは興味深く、これからの病院薬剤師の在り方について考えさせられました。

第2部では、様々な職種の方のお話を聞くことが出来たのがとても面白かったです。私自身、がんプロについてあまり知らなかったため、興味を持つきっかけになったと思います。

職種の異なるパネリストの意見が聞けて良かった。

色々な話が聞けてよかったから。

今まで漠然と、薬剤師はチーム医療の一員で…と教わってきたが、どうしても医者への補助的なイメージが強かったため、薬剤師が主体的に物事を進めていく話が聞けて良かった。

今回が初めてでしたが、パネリストのかたがたの様々な視点からの意見が、進路決定される方にもわかりやすく参考になると思いました。

パネラーの皆さんが大学院での経験を糧に輝いておられる様子が感じられて素敵でした。

第1部同様、がん専門薬剤師が具体的に日々どのような業務を行い、それがどのように医療現場で活かされているか等の話が聞けるとして申し込んだ。現場の薬剤師の生の声が聴きたかったが、経験の浅そうな若い5人から「仕事とは…」みたいな話をされても興ざめ。聴きたかったのは、そんな話じゃない。

先輩という身近な存在からお話を聞いたことで、自分のことに落とし込んで考えやすかったのが良かったです。

何となく熱いものが感じられない

形式的過ぎた。パネリストだけでも全員同じ部屋で対応するほうがよかったと思う。発言者を相談出来たりして便利だから。そういう理由もあってか、パネリストに覇気がなかった(京都薬大教員なので遠慮なく書きます)。勉強の成果をもっと活かした研究・仕事を目指してほしい。

高度がん医療を先導するがん医療人養成というテーマではありますが、どんな方に受講して欲しかったのでしょうか？多様な患者様(目の前、将来出会う方々)の新ニーズに対応する医療従事者の養成の受講講座とは思えないものだったからです。目の前の患者様、さらには全世界の将来の患者様に福音をもたらすような情報を発信していくために、臨床上の課題をどのように解決できるように模索していくのか、様々な視点が必要になってくると思います。それゆえに今回の講座を受講しましたが、残念でした。

生涯学習の一環として社会人にセミナーの案内を送り、社会人も対象として実施するような内容ではない。

このような内容は在学生のみを対象に行うべき。

6に記載のとおり。

最後の数分で芦原先生がご質問され、それに対してパネラーの方々か一人二人とお答えをされる段になってようやく、現在のご職業とがんプロの関連性が見えてきた印象でした。

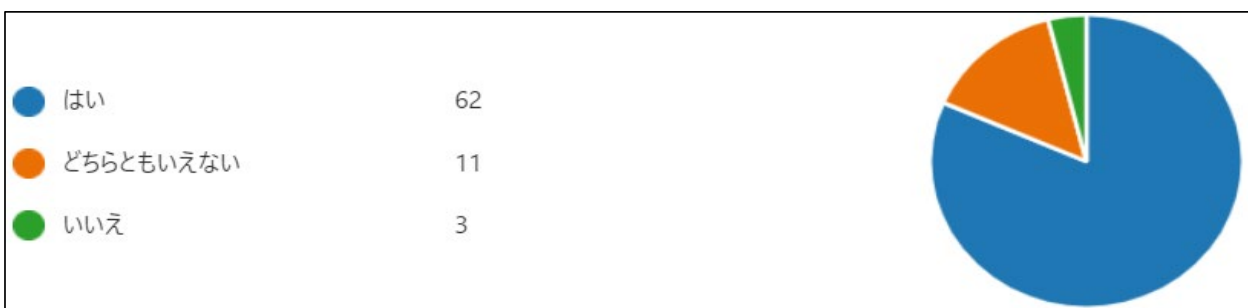
卒業生の方々の就職に関するお話は学部生にもとても参考になるお話だったと思います。

それぞれの考え方を聞くことができ、薬学生の講義にもいかせたい。

参考になった

私は製薬会社で勤務しており調剤経験もないので専門薬剤師にはなれないのですが、それを目指す学生さんと同じ目線を持つことができ、想いを共感させていただきました。

10.このようなセミナーがあれば、また受講したいですか。



11.他に「がんに関する内容」で聴講してみたい内容がありましたらご記入ください。

抗がん剤について
がんだけではなくですが、在宅関係を。
各部位のがんに関しての話
治療・支持療法に関する基礎的なことから応用まで学びたいです。
がんの薬薬連携、地域連携についての講演があれば参加したいです。
最近注目されているがん研究について、そのほかについても実際にがんについて専門に働いているの方からの話が聞いてみたい。
実際に薬学部以外の人たち(医師、看護師、臨床検査技師など)のがんに対してどういった考えを持っているのか、ディスカッションを聞いてみたい
終末期医療についてお話を伺ってみたいです。
患者さんが、闘病中に感じたことなどを聞いてみたいです。
がん疼痛コントロール
がん専門薬剤師の方の在宅療養中の痛みの対処法について。
薬局で処方される抗がん剤内服薬の副作用の対処の仕方について
フォローアップ
今回、少しお話がありました、診察前面談での業務や退院カンファレンスにおける他職種の方との関わり方などお話いただけただけありがたいです。
当院は地域包括病棟なので高価な薬剤や例えばモーズペーストなど管理の難しい薬剤が作れなません。その場合の代替薬など、他院で行っている工夫を知りたいです。

12.本セミナーを聴講されてお気づきの点がありましたら、自由にご記入ください。

オンラインだからこそ、多くの学生等が色々な方のお話を聞けたのがよかったと思う。
特にありません。
コロナのせいもありますが、今後もっと学生と発表者との交流ができる会であればと思いました。
本日はありがとうございました
オンラインでの開催ということもあり、気軽に参加できたのが良かったと思います。
将来薬剤師となった後のキャリアパスの参考にさせていただきたいと思います。
通信状況が悪く聞き取れなかった部分もあるのでアーカイブを残してくださいとありがたいです。
この度は貴重な機会を設けて下さりありがとうございました。がんプロをよく理解しないまま参加してしまいましたが、参考になる内容が多く、参加させていただけたことに感謝しております。そして、理解していなかったために本セミナーの趣旨とは異なる内容の事前質問を提出してしまいましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。
急な参加申し込みにも、対応していただきまして、ありがとうございました。
声が二重に聞こえて少し聞き取りづらい部分がありました。
一般論として、すべてのこういった講演会は「開催することに意義がある」のではなく、開催してどれだけの人に役立つかを指すべきだと思います。この会はそういう点で、講演会はよかったですが、パネル。。は満足感無かったです。
どのような方を受講対象にしているのでしょうか？
講座を受講する方々は、全て健常者なのでしょうか？薬剤師であっても聴覚に障がいをもたれたり、視覚に障害をもたれたりしていても現在医療に貢献している方もいるのではないのでしょうか？そのような方々に対しても聴講しやすい環境作りをお願いしたいです。なぜなら、多様な新ニーズに対応する医療従事者の養成には、必要なことではないのでしょうか？
在学生を対象とするような内容なら、その旨明記するか、そのようなセミナーの案内を、社会人には送らないようにして頂きたい。
わざわざ休みを取って受講したが、社会人の私には意味のない講義だった。
大変勉強になりました。ありがとうございました。
ありがとうございました。
私が学生の頃は専門薬剤師がなかった時代ですので良くわからなかったのですが、今、メーカーに勤務されている方々にとって、専門薬剤師を取得されるメリットについても少しお話しいただけたら良かったなと思いました。